

敵基地攻撃能力保有とは

戦争の危険引き寄せる

岸田首相は、大軍拡を「専守防衛の範囲」と言っていますが、そんなことはありません。日本が「他国に脅威を与えるような軍事大国」に様変わりし、戦争の危険を引き寄せることとなります。

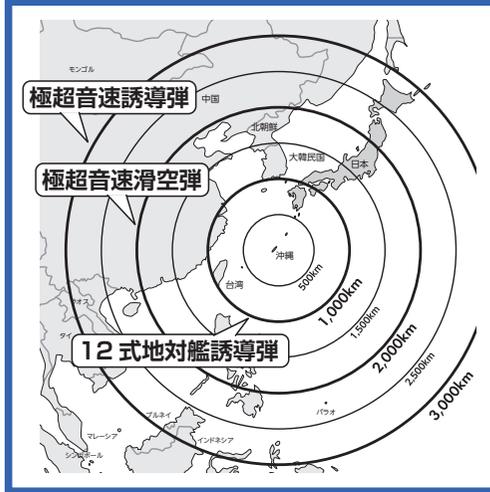
「専守防衛」の範囲？

中国深くまで届くミサイル「脅威」与える国に

大軍拡のメインは「敵基地攻撃能力」の保有です。導入する「スタンド・オフ・ミサイル」は相手国の脅威圏の外から打ち込む長射程のミサイル。射程は数千キロ、音速の5倍以上のものも。中国や北朝鮮の多くの都市が射程に入ります。政府は反撃能力と言い換え、危険な本質を隠しています。「専守防衛」を完全に投げ捨て

「専守防衛」は、日本は「盾」に徹し、「矛」は持たない—あえて持たないことで相手国との緊張をエスカレートさせず、日本を守っていこうという方針です。「矛」で身構え、周辺国に脅威を与えるやり方は「専守防衛」を完全に投げ捨てるもの。それは「軍事対軍事」の悪循環に陥り、偶発的な衝突でも起きれば日本に戦火を招くこととなります。共産党は、国民の命を危険にさらす大軍拡に断固反対を貫きます。

沖縄本島から発射した場合の射程



導入する長射程ミサイル

国産(開発・配備中)

12式地对艦誘導弾能力向上型/1000⁺超

地上だけでなく、艦船、戦闘機(F2戦闘機)にも搭載。



極超音速高速滑空弾/2000⁺超

高高度を上下しながら滑空し、マッハ5以上で落下し攻撃。



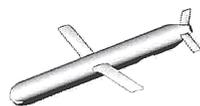
極超音速誘導弾/3000⁺

スクラム・ジェットエンジンを搭載。低高度をマッハ5以上で飛行。誘導で軌道も自在に。



輸入 トマホーク/1600⁺

米国製の長距離巡航ミサイル。イラク、アフガニスタンなどの米の先制攻撃戦争で使用。23年度予算案に2113億円計上。400発購入予定。



共産党攻撃の前に もっとやることがある

戦前の専制政治の下、共産党はどんなことがあっても「侵略戦争反対」「主権在民」の旗を降ろしませんでした。侵略戦争は、この党への弾圧から始まりました。新聞は、共産党を犯罪者扱いし、政府と一体になって戦争を推進しました。

蜷川虎三元京都府知事

憲法学者が主張

は朝鮮戦争の前夜、「反共は戦争前夜の声」と言いました(1950年4月)。これは歴史の教訓です。「メディアは岸田政権の大軍拡路線にたいしてまともな批判をしていない。共産党攻撃の前にもっとやるべきことがあるのではないか」。憲法学者・小林節さんは訴えています。

戦争の心配ない東アジアに

絶対に戦争を起こさせないため知恵と力をつくすのが政治の責任です。共産党は、日本、中国、米国も包み込む(包摂的)平和の枠組みをつくる「外交ビジョン」を提案しています。注目しているのは東南アジア諸国連合(ASEAN)です。徹底した対話で東南アジアを“平和と協力”の地域に変えてきました。

ASEANはいま日米中ロなど8カ国を加えた「東アジア首脳会議」を強化し、東アジア全体を戦争の心配のない地域しようという構想を示しています。この方向を強力に推進していくことが、一番の日本の安全保障ではないでしょうか。

日本共産党

どうやって安全まもる？